

# 3-14 食品残さを原料とした堆肥を自社及び協力農場で製造し、資源循環に取り組む (株式会社アレフ)

北海道札幌市 2023年11月時点

食品残渣 固形 全国

○ 株式会社アレフは、自社レストランの生ごみ資材（食品残渣の一次発酵物）から堆肥を製造。それを利用し、生産された農産物の一部を自社レストランに使用するリサイクルループを確立。

## 国内資源の種類

- ・全国共通：生ごみ資材
- ・えこりん村：家畜敷料
- ・道外・道内：家畜糞、副資材（もみがら等）

## 作物

水稲、畑作物全般

## 肥料の種類・肥料名称

えこりん村堆肥  
(道内名称)

### 主成分の含有量(%）、特徴等

N	P	K
4.17	1.77	4.78

- ・水分率：34.3%
- ・C/N比：9.2

※2023年8月29日時点

## 取組の経緯・内容・成果（見込み）

### 取組の経緯

- ・（株）アレフでは、平成8年年頃から、自社レストラン「びっくりドンキー」の食材の安全性の追求や生ごみの資源化などに挑戦。平成15年から社内に「環境マネジメントシステム推進委員会（現「SDGs推進委員会」）」を作り、安全安心な食を提供するため、食→農業→環境へ目に向けた活動を実施。

### 取組の内容

- ・全国のびっくりドンキーの約1/3にあたる114店舗に、生ごみ粉碎乾燥処理機「ゼロワンダー」を設置（処理能力30～50kg/日）。脱臭炭も装備され、店舗の食品残渣を微生物の力で分解発酵した「生ごみ資材」を、堆肥生産のための発酵促進材として活用。

【えこりん村での堆肥製造（堆肥原料：生ごみ資材と家畜の敷料）】

道内各店舗等から回収した生ごみ資材と家畜の敷料を混合し、自社施設えこりん村（恵庭市にある環境負荷低減施設を有するエコロジーテーマガーデン）内の堆肥場で「えこりん村堆肥」を製造。近隣農家で利用及び村内で袋詰め販売。

【道外、道内での堆肥製造（堆肥原料：生ごみ資材と家畜糞等）】

生ごみ資材を各地の協力農場が引き取り、各自の家畜糞等と混合し堆肥製造。堆肥は自家利用のほか園芸肥料として販売。生産物の一部は、自社レストランの食材（野菜やお米）として使用されリサイクルループが形成されている。

### 成果

- ・促進材の混合により高温で発酵が進むため、従来堆肥（糞尿のみ）より発酵期間が短縮。従来堆肥と比べても作物の生育・品質に遜色なしと好評。



生ごみ粉碎乾燥処理機ゼロワンダー



えこりん村堆肥

## 今後の課題・取組

- ・堆肥舎の老朽化に対する対応

## 主たる取組主体と肥料利用までの流れ

